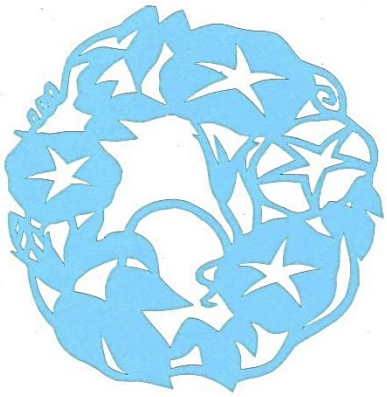
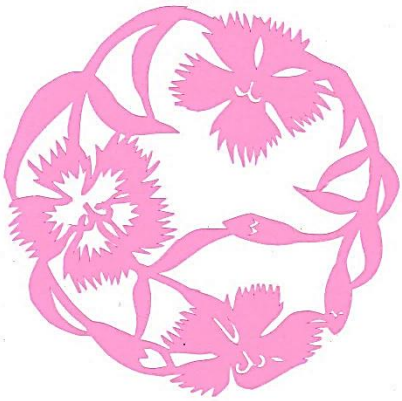


懐かしの童謡、愛唱歌

歌声歌集



【目　　次】

題名	ページ
・青い目の人形	３
・仰げば尊し	３
・赤い靴	３
・赤い鳥小鳥	３
・赤い帽子白い帽子	４
・赤とんぼ	４
・朝はどこから	４
・あの町この町	５
・雨	５
・あめふり	５
・雨降りお月さん	６
・アルプス一万尺	６
・あんたがたどこさ	７
・池の鯉	７
・一寸法師	７
・一月一日	７
・五木の子守唄	８
・うさぎ	８
・うさぎとかめ	８
・兎のダンス	８
・牛若丸	９
・海	９
・浦島太郎	９
・大きな栗の木の下で	１０
・おおさむこさむ	１０
・お正月	１０
・朧月夜	１０
・おもちゃのマーチ	１０
・お山のお猿	１１
・蛙の夜回り	１１
・案山子	１１
・かごめかごめ	１１
・霞か雲か	１１
・かたつむり	１２
・かもめの水兵さん	１２
・汽車	１２
・汽車ポッポ	１３
・きよしこの夜	１３
・金魚の昼寝	１３
・金太郎	１３

題名	ページ
・グッドバイ	１４
・くつがなる	１４
・こいのぼり	１４
・鯉のぼり	１４
・荒城の月	１５
・こうま	１５
・黄金虫	１５
・故郷の空	１５
・故郷の廃屋	１６
・この道	１６
・さくらさくら	１６
・叱られて	１６
・証城寺の狸囃子	１７
・シャボン玉	１７
・十五夜お月さん	１７
・ずいずいずっころばし	１７
・雀の学校	１８
・砂山	１８
・背くらべ	１８
・船頭さん	１８
・早春賦	１９
・大黒様	１９
・竹田の子守歌	１９
・たなばた	２０
・俵はゴロゴロ	２０
・茶摘み	２０
・蝶々	２１
・月	２１
・出船	２１
・てるてる坊主	２２
・灯台守	２２
・時計台の鐘	２２
・通りゃんせ	２３
・どんぐりころころ	２３
・とんび	２３
・仲良し小道	２３
・夏は来ぬ	２４
・七つの子	２４
・庭に千草	２４
・人形	２４
・野菊	２４

題名	ページ
・箱根の山	２５
・鳩	２５
・はなさかじじい	２５
・花火	２６
・浜千鳥	２６
・浜辺の歌	２６
・春が来た	２６
・春の小川	２７
・春よ来い	２７
・ひらいたひらいた	２７
・琵琶湖周航の歌	２７
・ふじの山	２８
・冬景色	２８
・冬の星座	２８
・故郷	２８
・星影さやかに	２９
・星の界	２９
・ほたるこい	２９
・蛍の光	２９

題名	ページ
・ペチカ	３０
・牧場の朝	３０
・まちぼうけ	３０
・みどりのそよ風	３１
・港	３１
・虫のこえ	３１
・むすんでひらいて	３２
・村の鍛冶屋	３２
・村祭り	３２
・めえめえ子ヤギ	３２
・紅葉	３３
・桃太郎	３３
・やしの実	３３
・山寺の和尚さん	３３
・夕日	３４
・雪	３４
・ゆりかごの歌	３４
・宵待ち草	３４
・旅愁	３５
・りんごのひとりごと	３５
・われは海の子	３５

歌う門には
福来る

＊青い目の人形

作詩・野口雨情　作曲・本居長世

青い目をした　お人形は
アメリカ生まれの　セルロイド
日本の港に　ついたとき
いっぱい涙を　うかべてた
わたしは言葉が　わからない
迷子になったら　なんとしょう
やさしい日本の　嬢ちゃんよ
仲良く遊んで　やっとくれ
仲良く遊んで　やっとくれ

＊仰げば尊し

作詩作曲・不詳

仰げば尊し　わが師の恩
教えの庭にも　はやいくとせ
思えばいととし　このとしつき
今こそ別れめ　いざさらば
互いにむつみし　日ごろの恩
別るるのちにも　やよ忘るなな
身を立て名をあげ　やよはげめよ
今こそ別れめ　いざさらば

朝夕なれにし　まなびの窓
蛍のともし火　積む白雪
忘るるまぞなき　ゆく年月
今こそ別れめ　いざさらば

＊赤いくつ

作詩・野口雨情　作曲・本居長世

赤いくつ　はいてた　女の子
異人さんに　連れられて
行っちゃった

横浜の　波止場から　船に乗って
異人さんに　連れられて
行っちゃった

今では　青い目に　なっちゃって
異人さんの　お国に　いるんだろう

赤いくつ　見るたびに　かんがえる
異人さんに　逢うたび　考える

＊赤い鳥小鳥

作詩・北原白秋　作曲・成田為三

赤い鳥小鳥　なぜなぜ赤い
赤い実を食べた

白い鳥小鳥　なぜなぜ白い
白い実を食べた

青い鳥小鳥　なぜなぜ青い
青い実を食べた

＊赤い帽子白い帽子

作詩・武内俊子　作曲・河村光陽

赤い帽子白い帽子　仲良しさん
いつも通るよ　女の子
ランドセル　しょって
お手々を　振って
いつも通るよ　仲良しさん

赤い帽子白い帽子　仲良しさん
いつもかけてく　草の道
おべんとう　さげて
お手々を　組んで
いつもかけてく　なかよしさん
赤い帽子白い帽子　仲良しさん
いつも楽しい　笑い声
おひより小道
かげぼうし　踏んで
いつも楽しい　仲良しさん

赤い帽子白い帽子　仲良しさん
いつもかわいい　歌い声

黒いくつ　はいて
赤いくつ　はいて
いつもかわいい　仲良しさん

＊赤とんぼ

作詩・三木露風　作曲・山田耕作

ゆうやけ　こやけの　赤とんぼ
おわれて　見たのは　いつの日か

山の畑の　桑の実を
こかごに摘んだは　まぼろしか

十五でねえやは　嫁にゆき
お里の便りも　絶えはてた

ゆうやけ　こやけの　赤とんぼ
止まっているよ　竿の先

＊朝はどこから

作詩・森まさる　作曲・橋本国彦

朝はどこから　来るかしら
あの空越えて　雲越えて
光の国から　来るかしら
いえいえ　そうではありません
それは　希望の家庭から
朝が来る来る　朝が来る
「おはよう」「おはよう」

昼はどこから　来るかしら
あの山越えて　野を越えて
ねんねの里から　来るかしら
いえいえ　そうではありません
それは　働く家庭から
昼は来る来る　昼は来る
「こんにちは」「こんにちは」

夜はどこから　来るかしら
あの星越えて　月超えて

おとぎの国から　来るかしら
いえいえ　そうではありません
それは　たのしいかていから
夜が来る来る　夜が来る
「こんばんは」「こんばんは」

＊あの町この町

作詩・野口雨情　作曲・中山晋平

あの町　この町
日が暮れる　日が暮れる
いま来たこの道
帰りゃんせ　帰りゃんせ

おうちが　だんだん
遠くなる　遠くなる
いま来たこの道
帰りゃんせ　帰りゃんせ

お空に　ゆうべの
星が出る　星が出る
いま来たこの道
帰りゃんせ　帰りゃんせ

＊雨

作詞・北原白秋　作曲・中山晋平

雨が降ります　雨が降る
遊びにゆきたし　傘はなし
紅緒の木靴（かっこ）も　緒が切れた

雨が降ります　雨が降る
いやでもお家で　遊びましょう
千代紙折りましょう　畳みましょう

雨が降ります　雨が降る
けんけん小きじが　今ないた
小きじも寒かろ　寂しかろ

雨が降ります　雨が降る
お人形寝かせど　まだ止まぬ
お線香花火も　みな焚いた
雨が降ります　雨が降る
昼も降る降る　夜も降る
雨が降ります　雨が降る

＊雨ふり

作詩・北原白秋　作曲・中山晋平

雨　雨　降れ降れ　かあさんが
じゃのめで　お迎え　嬉しいな
ピッチピッチ　チャップチャップ
ラン　ラン　ラン

かけましょ　かばんを　母さんの
あとから　行こ行こ　鐘がなる
ピッチピッチ　チャップチャップ
ラン　ラン　ラン

あらあら　あの子は　ずぶぬれだ
柳のねもとで　泣いている
ピッチピッチ　チャップピャップ
ラン　ラン　ラン

かあさん　ぼくのを　貸しましょか
きみ　きみ　この傘　さしたまえ
ピッチピッチ　チャップチャップ
ラン　ラン　ラン
ぼくなら　いいんだ　かあさんの
大きな　じゃのめに　入ってく
ピッチピッチ　チャップチャップ
ラン　ラン　ラン

＊雨降りお月さん

作詩・野口雨情　作曲・中山晋平

雨降りお月さん　雲のかげ
お嫁にゆくときゃ　誰とゆく
一人でから傘　さしてゆく
から傘ないときゃ　誰とゆく

シャラシャラ　シャンシャン
鈴つけた
お馬にゆられて　ぬれてゆく

いそがにゃ　お馬よ　夜が明けよ
手綱の下から　ちょいと見たりゃ
お袖で　お顔を　隠している
お袖は　ぬれても　干しゃ乾く
雨降りお月さん　雲のかげ
お馬にゆられて　ぬれてゆく

＊アルプス一万尺

アメリカ民謡

アルプス一万尺　こやりの上で
アルペン踊りを
サア　おどりましょう　（ヘイ）

※ランララララ　ララララ
ランララララ　ララララ
ランララララ　ララララ
ララ　ララ　ラ　ラ

お花畠で　昼寝をすれば
ちょうちょが飛んできて
キスをする　（ヘイ）
※くりかえし

一万尺に　テントを張れば
星のランプに　手が届く　（ヘイ）
※くりかえし
槍や　穂高は　隠れて見えぬ
見えぬあたりが　槍穂高（ヘイ）
※くりかえし

＊あんたがたどこさ

わらべうた

あんたがたどこさ　肥後さ
肥後どこさ　熊本さ
熊本どこさ　せんばさ
せんば山には　狸がおってさ
それを漁師が　鉄砲で打ってさ
煮てさ　食ってさ
うまさで　さっさ

＊池のこい

文部省唱歌

出てこい　出てこい　池のこい
底のまつ藻の　茂った中で
手のなる音を　聞いたらこい
聞いたらこい
出てこい　出てこい　池のこい
岸の柳に　しだれた陰へ
投げた焼きふが　見えたらこい
見えたらこい

＊一寸法師

作詩・岩谷小波　作曲・田村虎蔵

指にたりない　一寸法師
小さい体に　大きな望み
お椀の舟に　箸のかい
京へはるばる　のぼり行く

京は三条の　大臣殿に
抱えられたる　一寸法師
法師　法師と　お気にいり
姫のお供で　清水へ

さても帰りの　清水寺に
鬼が一匹　現れ出でて
くってかかれば　その口へ
法師たちまち　おどりこむ
針の刀を　さか手に持って
ちくりちくりと　腹なかつけば
鬼は法師を　はき出して
一生懸命　逃げて行く

鬼が忘れた　打ち出のこづち
打てば不思議や　一寸法師
ひとうちごとに　背が伸びて
今は立派な　大おとこ

＊一月一日

作詩・千家尊福　作曲・上真行

年の初めの　ためしとて
終わりなき世の　めでたさを
松竹たてて　門ごとに
祝う今日こそ　楽しけれ

初日のひかり　さし出でて
よもに輝く　今朝のそら
君がみかげに　たぐえつつ
あおぎ見るこそ　とうとけれ

＊五木の子守歌

熊本民謡

①おどま盆ぎり盆切り
盆から先ゃおらんど
盆がはよ来りゃ　はよ戻る
②おどま勧進鳴く勧進
あん人達ゃよか衆
よかしゃよか帯　よか着物（きもん）
③あすは山こえ　どこまで行こか
鳴くは裏山　蝉ばかり
④おどんが打死（うっち）んだちゅて
誰（だい）が泣（にゃ）てくりゅきゃ
裏の松山　蝉が鳴く
⑤蝉じゃごんせぬ
妹（いもと）でござる
妹泣くなよ　気にかかる
⑥おどんが打死だば　道端ゃいけろ
通る人ごち　花あぎゅう
⑦花はなんの花　つんつん椿
水は天から　もらい水

＊うさぎ

小学唱歌

うさぎ　うさぎ
なに見て　はねる
十五夜　お月さま
見てはねる

＊うさぎとかめ

作詩・石原和三郎　作曲・納所弁次郎

もしもしかめよ　かめさんよ
世界のうちで　おまえほど
歩みののろい　ものはない
どうしてそんなに　のろいのか

なんとおっしゃる　うさぎさん
そんならおまえと　かけくらべ
向こうの小山の　ふもとまで
どちらが先に　かけつくか

どんなにかめが　急いでも
どうせ晩まで　かかるだろう
ここらで　ちょっと　ひと眠り
ぐうぐう　ぐうぐう　ぐうぐうぐう

これは寝すぎた　しくじった
ぴょんぴょん　ぴょんぴょん
ぴょんぴょんぴょん
あんまり遅い　うさぎさん
さっきの自慢は　どうしたの

＊うさぎのダンス

作詩・野口雨情　作曲・中山晋平

ソソラ　ソラソラ　うさぎのダンス
タラッタ　ラッタラッタ
ラッタ　ラッタ　ラッタ　ラ
足で蹴り蹴り　ピョコピョコ踊る
耳にはちまき
ラッタ　ラッタ　ラッタ　ラ

ソソラ　ソラソラ　かわいいダンス
タラッタ　ラッタラッタ
ラッタ　ラッタ　ラッタ　ラ
飛んで跳ね跳ね　ピョコピョコ踊る
足に赤靴
ラッタ　ラッタ　ラッタ　ラ

＊牛若丸

文部省唱歌

京の五条の　橋の上
大の男の　弁慶は
長いなぎなた　振り上げて
牛若めがけて　切りかかる

牛若丸は　飛びのいて
持った扇を　投げつけて
来い来い来いと　欄干の
上へ上がって　手をたたく

前やうしろや　みぎひだり
ここと思えば　またあちら
つばめのような　早わざに
鬼の弁慶　あやまった

＊海

文部省唱歌

松原遠く　消ゆるところ
白帆の影は　浮かぶ
干し網　浜に高くして
かもめは低く　波に飛ぶ
見よ　昼の海　見よ　昼の海

島山　やみに　しるきあたり
漁り火　光淡し
寄る波　岸にゆるくして
うら風かろく　いさご吹く
見よ夜の海　見よ夜の海

＊浦島太郎

文部省唱歌

昔　昔　浦島は
助けたかめに　連れられて
竜宮城へ　来てみれば
絵にもかけない　美しさ

乙姫様の　ご馳走に
たいやひらめの　舞い踊り
ただ珍しく　おもしろく
月日のたつのも　夢の中
遊びにあきて　気がついて
おいとまごいも　そこそこに
帰る途中の　楽しみは
みやげにもらった　玉手箱

帰ってみれば　こはいかに
もといた家も村もなく
道に行き会う　人びとは
顔も知らない　ものばかり

心細さに　ふたとれば
開けてくやしき　玉手箱
中からぱっと　白けむり
たちまち太郎は　おじいさん

＊大きなくりの木の下で

作詩作曲・不詳

大きなくりの　木の下で
あなたと　わたし
なかよく　あそびましょう
大きなくりの　木の下で

＊おおさむ　こさむ

わらべうた

お寒む　こ寒む
山から小僧が　ないてきた
なんといって　ないてきた
なんといって　ないてきた
寒いといって　ないてきた

＊お正月

作詩・東くめ　作曲・滝廉太郎

もういくつ　寝ると　お正月
お正月には　凧あげて
独楽をまわして　遊びましょう
もういくつ　寝ると　お正月

もういくつ　寝ると　お正月
お正月には　毬ついて
おい羽根　ついて　遊びましょう
早く来い来い　お正月

＊朧月夜

小学唱歌

菜の花畠に　入り日薄れ
見渡す山の端　霞ふかし
春風そよふく　空を見れば
夕月かかりて　におい淡し

里わの火影（ほかげ）も　森の色も
田中のこみちを　たどる人も
蛙（かわず）の鳴くねも　かねの音も
さながらかすめる　朧月夜

＊おもちゃのマーチ

作詩・海野厚　作曲・小田島樹人

やっとこ　やっとこ　くり出した
おもちゃのマーチが　ラッタッタ
人形の兵隊　勢ぞろい
お馬もわんわも　ラッタッタ

やっとこ　やっとこ　ひと回り
キューピもポッポも　ラッタッタ
フランス人形も　飛び出して
笛ふきゃ太鼓が　パッパラパン

＊お山のおさる

作詩・鹿島鳴秋　作曲・滝廉太郎

お山のお猿は　まりが好き
とんとん　まりつきゃ　踊りだす
ほんに　お猿は　道化もの
赤いべべ着て　傘さして
おしゃれ　さるさん　まりつけば
お山の月が　笑うだろ

＊蛙の夜まわり

作詩・中山晋平　作曲・野口雨情

かわずの夜まわり
ガッコ　ガッコ
ゲッコ　ピョン　ピョン
ラッパふけ　ラッパふけ
ガッコ　ゲッコ　ピョン
それふけ　もっとふけ
ガッコ　ゲッコ　ピョン
ガッコ　ゲッコ　ガ　ハ
ピョンコ　ピョンコ　ピョン
ガッコ　ゲッコ　ゲ　ハ
ピョンコ　ピョンコ　ピョン
ガッコ　ピョン　ゲッコ　ピョン
ガッコ　ゲッコ　ピョン

２番、３番略

＊かかし

小学唱歌

山田の中の　一本足のかかし
天気の良いのに　みの笠つけて
朝から晩まで　ただ立ちどおし
歩けないのか　山田のかかし

山田の中の　一本足のかかし
弓矢でおどして　りきんでおれど
山ではカラスが　カアカと笑う
耳が無いのか　山田のかかし

＊かごめ　かごめ

わらべ歌

かごめ　かごめ　かごの中のとりは
いついつ　出やる
よあけのばんに
つるとかめがすべった
うしろのしょうめん　だあれ

＊霞か雲か

作詩・加部巌夫　作曲・ドイツ民謡

霞か雲か　はた雪か
とばかり匂う　その花ざかり
百鳥（ももとり）さえも　うとうなり

霞は花を　へだつれど
隔てぬ友と　来て見るばかり
うれしき事は　世にもなし

かすみてそれと　見えねども
鳴くうぐいすに　さそわれつつも
いつしか来ぬる　花のかげ

＊かたつむり

小学唱歌

でんでん　むしむし　かたつむり
おまえの頭は　どこにある
つのだせ　やりだせ　頭だせ
でんでん　むしむし　かたつむり
おまえの　目玉は　どこにある
つのだせ　やりだせ　目玉だせ

＊かもめの水兵さん

作詩・武内俊子　作曲・河村光陽

かもめの　水兵さん
並んだ　水兵さん
白い帽子　白いシャツ　白い服
波にチャップチャップ　浮かんでる

かもめの　水兵さん
かけ足　水兵さん
白い帽子　白いシャツ　白い服
波をチャップチャップ越えてゆく
かもめの　水兵さん
ずぶぬれ　水兵さん
白い帽子　白いシャツ　白い服
波でチャップチャップお洗濯

かもめの　水兵さん
なかよし　水兵さん
白い帽子　白いシャツ　白い服
波にチャップチャップ揺れている

＊汽車

文部省唱歌

今は山中　今は浜
今は鉄橋　渡るぞと
思うまもなく　トンネルの
闇を通って　広野原

遠くに見える　村の屋根
近くに見える　町の軒（のき）
森や林や　田や畠
あとへあとへと　飛んで行く
回りどうろう　絵のように
かわる景色の　おもしろさ
見とれて　それと　知らぬ間に
早くも過ぎる　いく十里

＊汽車ポッポ

作詩・富原薫　作曲・草川信

汽車　汽車　ポッポ　ポッポ
シュッポ　シュッポ　シュッポッポ
ぼくらを　乗せて　シュッポ
シュッポ　シュッポッポ
速いな　速いな　窓の外
畑もとぶよ　家もとぶ
走れ　走れ　走れ
鉄橋だ　鉄橋だ　楽しいな

汽車　汽車　ポッポ　ポッポ
シュッポ　シュッポ　シュッポッポ
汽笛を　ならし
シュポシュッポ　シュッポッポ
ゆかいだ　ゆかいだ　いい景色
野原だ　林だ　ほら山だ
走れ　走れ　走れ
トンネルだ　トンネルだ　嬉しいな

＊きよしこの夜

作詩・由木康　作曲・グルーバー

きよし　この夜
星は　ひかり
救いの　みこは
み母の　胸に
眠りたもう　夢やすく

きよし　この夜
み告げ　受けし
ひつじ飼いらは
みこの　み前に
ぬかずきぬ　かしこみて

きよし　この夜
みこの　笑みに
めぐみの　みよの
あしたの　光
輝けり　ほがらかに

＊金魚の昼寝

作曲・鹿島鳴秋　作曲・弘田竜太郎

赤いべべ着た　かわいい金魚
おめめをさませば　ご馳走するぞ
赤い金魚は　あぶくを一つ
昼寝うとうと　夢からさめた

＊金太郎

作詩・石原和三郎　作曲・田村虎蔵

まさかりかついで　金太郎
熊にまたがり　お馬のけいこ
ハイシドウドウ　ハイドウドウ
ハイシドウドウ　ハイドウドウ

あしがら山の　山奥で
けだものあつめて　相撲のけいこ
ハッケヨイヨイ　ノコッタ
ハッケヨイヨイ　ノコッタ

＊グッドバイ

作詩・佐藤義美　作曲・河村光陽

グッドバイ　グッドバイ
グッドバイバイ
とうさんおでかけ　手をあげて
電車に乗ったら　グッドバイバイ
グッドバイ　グッドバイ
グッドバイバイ
はっぱであそんだ　友だちも
お昼になったら　グッドバイバイ

グッドバイ　グッドバイ
グッドバイバイ
町からいらした　おばさんも
ご用がすんだら　グッドバイバイ

グッドバイ　グッドバイ
グッドバイバイ
三匹うまれた　犬の子も
よそへあげたら　グッドバイバイ

グッドバイ　グッドバイ
グッドバイバイ
赤い夕焼け　お日さんも
沈んでいったら　グッドバイバイ

＊くつがなる

作詩・清水かつら　作曲・弘田竜太郎

おててつないで　野道をゆけば
みんな　可愛い　小鳥になって
歌をうたえば　くつがなる
晴れたみ空に　くつがなる
花を摘んでは　おつむにさせば
みんな　可愛い　うさぎになって
はねて踊れば　くつがなる
晴れたみ空に　くつがなる

＊こいのぼり

作詩・近藤宮子　作曲・井上武士

屋根より高い　こいのぼり
大きなまごいは　おとうさん
小さいひごいは　子どもたち
おもしろそうに　泳いでる

＊鯉のぼり

作詩作曲・不詳

いらかの波と　雲の波
重なる波の　なかぞらを
たちばなかおる　朝風に
高く泳ぐや　鯉のぼり

開ける広き　その口に
舟をものまん　さま見えて
ゆたかに振るう　尾ひれには
ものに動ぜぬ　姿あり

ももせの滝を　登りなば
たちまち竜に　なりぬべき
わが身に似よや　おのこごと
空に踊るや　鯉のぼり

＊荒城の月

作詩・土井晩翠　作曲・滝廉太郎

春高楼の　花の宴
めぐる盃　かげさして
千代の松が枝　わけ出でし
昔の光　今いずこ

秋陣営の　霜の色
鳴きゆく雁の　数見せて
植うるつるぎに　照りそえし
昔の光　今いずこ

今荒城の　よわの月
変わらぬ光　たがためぞ
垣に残るは　ただかづら
松に歌うは　ただ嵐

天井影は　変わらねど
栄枯は移る　世の姿
写さんとてか　今もなお
ああ荒城の　よわの月

＊こうま

小学唱歌

ハイシイ　ハイシイ
歩めよ　仔馬
山でも坂でも　ずんずん歩め
おまえが進めば　わたしも進む
歩めよ　歩めよ　足音高く

パカパカ　パカパカ
走れよ　仔馬
けれども急いで　つまずくまいぞ
おまえが転べば　わたしも転ぶ
走れよ　走れよ　転ばぬように

＊こがねむし

作詩・野口雨情　作曲・中山晋平

こがねむしは　金持ちだ
金蔵たてた　蔵たてた
あめ屋でみずあめ　買ってきた

こがねむしは　金持ちだ
金蔵たてた　蔵たてた
子どもにみずあめ　なめさせた

＊故郷の空

作詩・大和田建樹　スコットランド民謡

夕空晴れて　秋風ふき
月影おちて　鈴虫なく
思えば遠し　故郷の空
ああ我がちちはは　いかにおわす

すみゆく水に　秋萩たれ
玉なす露は　すすきにみつ
思えば似たり　故郷の野辺
ああ我がはらから　たれと遊ぶ

＊故郷の廃家（はいか）

作詞・大塚球渓　作曲・ヘイス

幾年（いくとせ）ふるさと　来てみれば
咲く花鳴く鳥　そよぐ風
かどべの小川　ささやきも
なれにし昔に　変わらねど
荒れたる我が家（いえ）に
住む人絶えてなく

昔を語るか　そよぐ風
昔をうつすか　澄める水
朝夕かたみに　手をとりて
遊びし友びと　いまいずこ
さびしきふるさとや
さびしき我が家や

＊この道

作詞・北原白秋　作曲・山田耕作

この道は　いつか来た道
ああ　そうだよ
アカシヤの花が咲いてる

あの丘は　いつか見た丘
ああ　そうだよ
ほら白い時計台だよ

この道はいつか来た道
ああ　そうだよ
お母さまと馬車で行ったよ
あの雲も　いつか見た雲
ああ　そうだよ
サンザシの枝も垂れてる

＊さくら

作詩・不詳　作曲・近世箏曲

さくら　さくら
野山も　里も　見わたすかぎり
かすみか　雲か　朝日ににおう
さくら　さくら　花ざかり

＊叱られて

作詩・清水かつら　作曲・弘田竜太郎

叱られて　叱られて
あの子は　町までお使いに
この子は　ぼうやをねんねしな
夕べさびしい　村はずれ
コンときつねが　鳴きゃせぬか

叱られて　叱られて
口には出さねど　目に涙
二人のお里は　あの山を
越えてあなたの　花の村
ほんに花見は　いつのこと

＊証城寺のたぬきばやし

作詩・野口雨情　作曲・中山晋平

しょ　しょ　証城寺
証城寺の　庭は
つ　つ　月夜だ
みな出て　来い来い来い
おいらの　友だちゃ
ポンポコポンのポン

負けるな　負けるな
和尚さんに　負けるな
来い来い来い　来い来い来い
みんな出て　来い来い来い

しょ　しょ　証城寺
証城寺の　萩は
つ　つ　月夜に　花ざかり
おいらも　浮かれて
ポンポコポンのポン

＊シャボン玉

作詩・野口雨情　作曲・中山晋平

シャボン玉　飛んだ
屋根まで　飛んだ
屋根まで　飛んで
こわれて　消えた

シャボン玉　消えた
飛ばずに　消えた
生まれて　すぐに
こわれて　消えた

風　風　吹くな
シャボン玉　飛ばそ

＊十五夜お月さん

作詩・野口雨情　作曲・本居長世

十五夜お月さん　ごきげんさん
ばあやは　おいとま　とりました

十五夜お月さん　妹は
田舎へ　もられて　ゆきました

十五夜お月さん　かかさんに
も一度　わたしは　逢いたいな

＊ずいずいずっころばし

わらべうた

ずいずいずっころばし
ごまみそずい
ちゃつぼに　おわれて
トッピンシャン
ぬけたら　ドンドコショ
俵の　ねずみが
米くってチュー
チュー　チュー　チュー

おっとさんが　よんでも
おっかさんが　よんでも
いきっこなしよ
井戸のまわりで
お茶碗欠いたの　だーれ

＊すずめの学校

作詩・清水かつら　作曲・弘田竜太郎

チイチイ　パッパ　チイ　パッパ
すずめの学校の　先生は
むちを　ふりふり　チイ　パッパ
生徒のすずめは　輪になって
お口をそろえて　チイ　パッパ
まだまだ　いけない　チイ　パッパ
も一度　いっしょに　チイ　パッパ
チイチイ　パッパ　チイ　パッパ

＊砂山

作詩・北原白秋　作曲・中山晋平

海は荒海　むこうは佐渡よ
すずめ啼け啼け　もう日は暮れた
みんな　呼べ呼べ　お星さま出たぞ
暮れりゃ砂山　しお鳴りばかり
すずめちりじり　また風荒れる
みんなちりぢり　もう誰も見えぬ
帰ろ帰ろよ　ぐみ原わけて
すずめさよなら　さよならあした
海よさよなら　さよならあした

＊背くらべ

作詩・海野厚　作曲・中山晋平

柱のきずは　おととしの
五月五日の　背くらべ
ちまき食べ食べ　兄さんが
計ってくれた　背のたけ
きのう比べりゃ　なんのこと
やっと羽織の　紐のたけ
柱にもたれりゃ　すぐ見える
遠いお山も　背くらべ
雲の上まで　顔出して
てんでに　背伸びしていても
雪の帽子を　ぬいでさえ
一はやっぱり　富士の山

＊船頭さん

作詩・武内俊子　作曲・河村光陽

村の渡しの　船頭さんは
ことし六十の　おじいさん
年はとっても　お舟をこぐときは
元気一ぱい　ろがしなる
ソレ　ギッチラ　ギッチラ
ギッチラコ

雨のふる日も　岸から岸へ
濡れて舟こぐ　おじいさん
けさもかわいい　子馬を二匹
むこう牧場へ　乗せてった
ソレ　ギッチラ　ギッチラ
ギッチラコ

川はきらきら　さざ波こ波
渡す　にこにこ　おじいさん
みんな　にこにこ　ゆれゆれ渡る
どうもごくろうさんと　言って渡る
ソレ　ギッチラ　ギッチラ
ギッチラコ

＊早春賦

作詩・吉丸一昌　作曲・中田章

春は名のみの　風の寒さや
谷のうぐいす　歌は思えど
時にあらずと　声もたてず
時にあらずと　声もたてず

氷とけ去り　あしはつのぐむ
さては時ぞと　思うあやにく
きょうもきのうも　雪の空
きょうもきのうも　雪の空

春と聞かねば　知らでありしを
聞けばせかるる　胸の思いを
いかにせよとの　この頃か
いかにせよとの　この頃か

＊大黒様

作詩・石原和三郎　作曲・田村虎蔵

大きな袋を　肩にかけ
大黒様が　きかかると
ここに因幡の　白うさぎ
皮をむかれて　赤はだか

大黒様は　あわれがり
きれいな水に　身をあらい
がまの穂綿に　くるまれと
よくよく教えて　やりました

大黒様の　言う通り
きれいな水に　身をあらい
がまの穂綿に　くるまれば
うさぎはもとの　白うさぎ

＊竹田の子守唄

竹田地方民謡

守りもいやがる　盆からさきにゃ
雪もちらつくし　子も泣くし

盆が来たとて　何うれしかろ
かたびらは無し　おびは無し

この子よう泣く　守りをばいじる
もりも一日　やせるやら
はよも行きたや
この在所こえて
向こうに見えるは　親のうち
向こうに見えるは　親のうち

＊たなばたさま

作詩・権藤花代　作曲・下総皖一

ささの葉　さらさら
のきばに　ゆれる
お星さま　きらきら
きんぎん　すなご

五色の　たんざく
わたしが　書いた
お星さま　きらきら
空から　見てる

＊俵はごろごろ

作詩・野口雨情　作曲・本居長世

俵はごろごろ　お倉にどっさりこ
お米はざっくりこで
ちゅうちゅう　ねずみはにっこりこ
お星様ぴっかりこ
夜のお空にぴっかりこ
居眠りごろごろ　舟漕ぎぎっちんこ
漕げ焦げこっくりこで
おやおや　おめめはぱっちりこ
ちょうちんぽっかりこ
鼻のちょうちんぽっかりこ

雷ごろごろ　稲妻ぴっかりこ
夕立ざんぶりこで
洗濯ぴっしょりこ
お庭もぴっしょりこ
雨で　お庭もぴっしょりこ

小石がごろごろ　高下駄ぱっちんこ
雨降りぴっちゃんこで
細道ざんぶりこ　小道もざんぶりこ
はいた　高下駄ぴっちゃんこ

＊茶摘み

作詩作曲・不詳

夏も近づく　八十八や
野にも山にも　若葉が茂る
あれに見えるは
茶摘みじゃないか
あかねだすきに　すげの笠

ひより続きの　今日この頃を
心のどかに　摘み摘み歌う
摘めよ　摘め　摘め
摘まねばならぬ
摘まにゃ　日本の茶にならぬ

＊蝶々

作詩・野村秋足　稲垣千願
スペイン民謡

蝶々　蝶々　菜の葉に　とまれ
菜の葉に飽いたら　桜にとまれ
桜の花の　花から花へ
とまれよ遊べ　遊べよとまれ

起きよ　起きよ　ねぐらのすずめ
朝日の光の　さしこぬ先に
ねぐらを出でて　こずえにとまり
遊べよすずめ　歌えよすずめ

＊月

文部省唱歌

でた　でた　月が
まるい　まるい　まんまるい
ぼんのような　月が

かくれた　雲に
くろい　くろい　まっくろい
すみのような　雲に

またでた　月が
まるい　まるい　まんまるい
ぼんのような　月が

＊出船

作詩・勝田香月　作曲・杉山長谷夫

こよい出船か　おなごりおしや
暗い波間に　雪が散る
船は見えねど　別れのこうたに
沖じゃ　千鳥も　鳴くぞいな

今なる汽笛は　出船の合図
無事で着いたら　便りをくりゃれ
暗いさみしい　ほかげのもとで
涙ながらに　読もうもの

＊出船の港

作詩・時雨音羽　作曲・中山晋平

ドンとドンとドンと　波乗り超えて
一ちょう二ちょう三ちょう
八ちょう　櫓でとばしゃ
サッとあがった　くじらのしお
しおのあちらで　朝日は踊る
エッサエッサエッサ　押し切る腕は
みごと黒がね　その黒がねを
波はためそと　ドンとつきあたる
ドンとドンとドンと
ドンと　つきあたる

風にほ綱を　きりりとしめて
かじを回せば　へさきは踊る
踊るへさきに　身をなげかけりゃ
夢は出船の　港へもどる

＊てるてる坊主

作詩・浅原鏡村　作曲・中山晋平

てるてるぼうず　てるぼうず
あした天気に　しておくれ
いつかの　ゆめの　空のよに
晴れたら金の　すずあげよ

てるてるぼうず　てるぼうず
あした天気に　しておくれ
わたしのねがいを　きいたなら
あまいおさけを　たんとのましょ

てるてるぼうず　てるぼうず
あした天気の　しておくれ
それでもくもって　ないてたら
そなたのくびを　チョンと切るぞ

＊とうだいもり

作詩・勝承夫　作曲・イギリス民謡

凍れる月影　空にさえて
真冬の荒波　寄する小島（おじま）
思えよ　とうだい　守る人の
とうとき優しき　愛の光

激しき雨風　北の海に
山なす荒波　たけり狂う
その夜もとうだい　守る人の
とうとき誠よ　海を照らす

＊どこかで春が

作詩・吉田宗治　作曲・草川信

どこかで　春が　生まれてる
どこかで　水が　流れ出す

どこかで　ひばりが　鳴いている
どこかで　芽の出る　音がする

山の三月　こちふいて
どこかで　春が　生まれてる

＊時計台の鐘

作詩作曲・高階哲夫

時計台の　鐘が鳴る
大空遠く　ほのぼのと
静かに夜は　明けて来た
ポプラのこずえに　日は照りだして
きれいなあしたに　なりました
時計台の　鐘が鳴る

時計台の　鐘が鳴る
アカシヤの木に　日は落ちて
静かに街も　暮れてゆく
山の牧場の　羊の群れも
だまっておうちへ　帰るだろう
時計台の　鐘が鳴る

＊通りゃんせ

わらべうた

通りゃんせ　通りゃんせ
ここはどこの　細道じゃ
天神様の　細道じゃ
ちっと　通して　くだしゃんせ
御用のないもの　通しゃせぬ
この子の　七つの　お祝いに
お札を　納めに　まいります
行きは　よいよい　帰りは　こわい
こわいながらも
通りゃんせ　通りゃんせ

＊どんぐり　ころころ

作詞・青木存義　作曲・梁田貞

どんぐり　コロコロ　ドンブリコ
お池にはまって　さあたいへん
どじょうが出て来て　こんにちは
ぼっちゃん　いっしょに
遊びましょう
どんぐり　コロコロ　喜んで
しばらくいっしょに　遊んだが
やっぱり　お山が　恋しいと
泣いてはどじょうを　困らせた

＊とんび

作詩・梁田貞　作曲・葛原しげる

飛べ　飛べ　とんび　空高く
鳴け　鳴け　とんび　青空に
ピンヨロー　ピンヨロー
ピンヨロー　ピンヨロー
楽しげに　輪を書いて
飛ぶ　飛ぶ　とんび　空高く
鳴く　鳴く　とんび　青空に
ピンヨロー　ピンヨロー
ピンヨロー　ピンヨロー
楽しげに　輪を書いて

＊仲よし小道

作詩・三苫やすし　作曲・河村光陽

仲よ良小道は　どこの道
いつも学校へ　みよちゃんと
ランドセルしょって　元気よく
お歌を歌って　通う道

仲良し小道は　嬉しいな
いつも隣りの　みよちゃんが
にこにこ遊びに　かけてくる
なんなん菜の花　におう道

仲良し小道の　小川には
とんとん板橋　かけてある
仲良くならんで　腰かけて
お話しするのよ　楽しいな

仲良し小道の　日暮れには
かあさまおうちで　お呼びです
さよなら　さよなら　またあした
お手々をふりふり　さようなら

＊夏は来ぬ

作詩・佐々木信綱　作曲・小山作之助

卯の花の　匂うかきねに
ほととぎす　はやも来鳴きて
しのびねもらす　夏は来ぬ

さみだれの　そそぐ山田に
さおとめが　も裾ぬらして
たまなえ　植うる　夏は来ぬ

たちばなの　かおる　のきばに
窓近く　蛍とびかい
おこたり　いさむる　夏は来ぬ

＊七つの子

作詩・野口雨情　作曲・本居長世

からすなぜ啼くの　からすは山に
かわいい七つの　子があるからよ
かわいかわいと　からすは啼くの
かわいかわいと　啼くんだよ
山の古巣へ　行って見てごらん
丸い目をした　いい子だよ

＊庭の千草

作詩・里見義　スコットランド民謡

庭の千草も　虫の音も
枯れてさびしく　なりにけり
ああ　白菊
ああ　白菊
ひとり遅れて　咲きにけり

露にたわむや　菊の花
霜におごるや　菊の花
ああ　あわれあわれ
ああ　白菊
人のみさおも　かくてこそ

＊人形

文部省唱歌

わたしの人形は　よい人形
目はぱっちりと　色白で
小さい口もと　愛らしい
わたしの人形は　よい人形

わたしの人形は　よい人形
歌をうたえば　ねんねして
ひとりでおいても　泣きません
わたしの人形は　よい人形

＊野菊

作詩・石森延男　作曲・下総皖一

遠い山から　吹いてくる
こ寒い風に　揺れながら
けだかく　清く　匂う花
きれいな野菊　うす紫よ

秋の日ざしを　浴びて飛ぶ
とんぼを軽く　休ませて
静かに咲いた　野辺の花
やさしい野菊　うす紫よ

霜が降りても　負けないで
野原や山に　群れて咲き
秋のなごりを　おしむ花
明るい野菊　うす紫よ

＊箱根の山

作詩・鳥井忱　作曲・滝廉太郎

箱根の山は　てんかのけん
かんこくかんも　ものならず
ばんじょうの山　せんじんの谷
前にそびえ　しりえにさそう
雲は山をめぐり
霧は谷をとざす
昼なおくらき　杉の並木
ようちょうの　しょうけいは
こけなめらか
いっぷかんに　あたるや
ばんぷも　開くなし
てんかに旅する　ごうきのもののふ
だいとうこしに　あしだかけ
八りの岩ね　ふみならす
かくこそ　ありしか
おうじの　もののふ

＊鳩

文部省唱歌

ポッ　ポッ　ポ
はと　ポッ　ポ

豆はうまいか　そろやるぞ
みんなで　なかよく　たべにこい

ポッ　ポッ　ポ
はと　ポッ　ポ
豆はうまいか　たべたなら
一度に　そろって　とんで行け

＊花さかじじい

作詩・石原和三郎　作曲・田村虎蔵

うらのはたけで　ポチが鳴く
正直じいさん　掘ったれば
大判小判が　ざくざくざくざく

いじわるじいさん　ポチ借りて
うらのはたけを　掘ったれば
瓦や　瀬戸かけ
がらがらがら

正直じいさん　うすほって
それで餅を　ついたれば
またぞろ　小判が
ざくざくざくざく

いじわるじいさん　うす借りて
それで餅を　ついたれば
またぞろ　瀬戸かけ
がらがらがら

正直じいさん　灰まけば
花は咲いた　枯れ枝に
ほうびはたくさん　お蔵に一ぱい

いじわるじいさん　灰まけば
とのさまの目に　それが入り
とうとう牢屋に　つながれました

＊花火

作詩・井上赳　作曲・下総皖一

ドン　となった
花火だ　きれいだな
空　いっぱいに　広がった
しだれ柳が　広がった

ドン　となった
何百　赤い星
一度に変わって　青い星
もいちど　変わって　金の星

＊浜千鳥

作詩・鹿野鳴秋　作曲・弘田龍太郎

青い月夜の　浜辺には
親を探して　なく鳥が
波の国から　生まれてる
濡れたつばさの　銀の色
夜なく鳥の　悲しさは
親を尋ねて　海こえて
月夜の国へ　消えてゆく
銀のつばさの　浜千鳥

＊浜辺の歌

作詩・林古溪　作曲・成田為三

あした浜辺を　さまよえば
昔のことぞ　しのばるる
風の音よ　雲のさまよ
寄する波も　貝の色も
ゆうべ浜辺を　もとおれば

昔の人ぞ　しのばるる
寄する波よ　返す波よ
月の色も　星のかげも

はやちたちまち　波をふき
赤ものすそぞ　濡れひじし
病みしわれは　すでにいえて
浜辺のまさご　まなごいまは

＊春が来た

作詩・高野辰之　作曲・岡野貞一

春が来た　春が来た　どこに来た
山に来た　里に来た　野にも来た

花がさく　花がさく　どこに咲く
山にさく　里にさく　野にもさく

鳥がなく　鳥がなく　どこでなく
山でなく　里でなく　野でもなく

＊春の小川

作詩・高野辰之　作曲・岡野貞一

春のおがわは　さらさらいくよ
きしのすみれや　れんげの花に
すがたやさしく　色うつくしく
さいているねと　ささやきながら

春のおがわは　さらさらいくよ
えびやめだかや　こぶなのむれに
きょうも一日　ひなたでおよぎ
遊べ遊べと　ささやきながら

＊春よ来い

作詩・相馬御風　作曲・弘田龍太郎

春よ来い　早く来い
歩きはじめた　みいちゃんが
赤い鼻緒の　じょじょはいて
おんもへ出たいと　待っている
春よ来い　早く来い
おうちの前の　桃の木の
つぼみもみんな　ふくらんで
はよ咲きたいと　待っている

＊ひらいた　ひらいた

わらべうた

ひらいた　ひらいた
なんの花が　ひらいた
れんげの花が　ひらいた
ひらいたと　おもったら
いつのまにか　つぼんだ

つぼんだ　つぼんだ
なんの花が　つぼんだ
れんげの花が　つぼんだ
つぼんだと　おもったら
いつのまにか　ひらいた

＊琵琶湖周航の歌

作詩・小口太郎　作曲。吉田千秋

われはうみの子　さすらいの
旅にしあれば　しみじみと
昇るさざりや　さざなみの
滋賀の都よ　いざさらば

松は緑に　砂白き
雄松が里の　おとめごは
赤い椿の　森かげに
はかない恋に　泣くとかや

波のまにまに　ただよえば
赤い泊り火　なつかしみ
ゆくえ定めぬ　波枕
きょうは今津か　長浜か

るりの花園　さんごの宮
古い伝えの　竹生島
仏のみ手に　いだかれて
眠れおとめご　やすらけく

＊富士の山

作詩・巌谷小波　作曲・不詳

頭を雲の　上に出し
四方の山を　見おろして
かみなりさまを　下にきく
ふじは　日本一の山

青空高く　そびえたち
からだに　雪のきものきて
かすみのすそを　遠くひく
ふじは　日本一の山

＊冬景色

作詩作曲・不詳

さぎり消ゆる　湊江（みなとえ）の
舟に白し　朝の霜
ただ　水鳥の声はして
いまだ覚めず　岸の家
からす啼きて　木に高く
人は畑（はた）に　麦を踏む
げに小春日の　のどけしや
かえりざきの　花も見ゆ

嵐吹きて　雲は落ち
しぐれ降りて　日は暮れぬ
もしともしびの　もれ来ずば
それと分かじ　野辺の里

＊冬の夜

作詩作曲・不詳

ともしび近く　衣縫う母は
春の遊びの　楽しさ語る
いならぶ子どもは
指を折りつつ
日数かぞえて　喜び勇む
いろりびは　とろとろ
外は吹雪

いろりのはたに　縄なう父は
過ぎしいくさの　手柄を語る
いならぶ子どもは
眠さ忘れて
耳をかたむけ　こぶしを握る
いろりびは　とろとろ
外は吹雪

＊ふるさと

作詩・高野辰之　作曲・岡野貞一

うさぎ追いし　かの山
こぶな釣りし　かの川
夢は今も　めぐりて
忘れがたき　ふるさと

いかにいます　父母（ちちはは）
つつがなしや　友がき
雨に風に　つけても
思い出ずる　ふるさと

志（こころざし）を　はたして
いつの日にか　帰らん
山は青き　ふるさと
水は清き　ふるさと

＊星かげさやかに

作詩・不詳　フランス民謡

星かげ　さやかに
静かに　ふけぬ
集いの　喜び
歌うは　うれし

名残りは　つきねど
まどいは　果てぬ
今日の　ひとひの幸（さち）
静かに　思う

＊星の界（よ）

作詩・杉谷代水　作曲・コンヴァース

月なきみ空に　きらめく光
ああその星かげ　希望の姿
人智は　果てなく　無窮の　おちに
いざ　その星かげ　きわめも行かん

雲なきみ空に　横とう光
ああ洋々たる　銀河の流れ
仰ぎて眺むる　万里のあなた
いざ　さおさせよや　窮理の船に

＊ほたるこい

わらべうた

ほう　ほう　ほたる　こい
あっちの水は　にがいぞ
こっちの水は　あまいぞ
ほう　ほう　ほたる　こい

＊蛍の光

作詩・不詳　スコットランド民謡

蛍の光　窓の雪
ふみよむ月日　重ねつつ
いつしか年も　すぎの戸を
明けてぞ　けさは　別れゆく

止まるも行くも　限りとて
形見に思う　ちよろずの
心のはしを　ひとことに
さきくとばかり　うとうなり

筑紫のきわみ　みちのおく
海山遠く　へだつとも
そのまごころは　へだてなく
一つにつくせ　国のため

千島のおくも　沖縄も
八島のうちの　守りなり
至らん国に　いさおしく
つとめよわがせ　つつがなく

＊ペチカ

作詩・北原白秋　作曲・山田耕作

雪のふる夜は　楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ　お話ししましょ
むかしむかしよ　燃えろよペチカ

雪のふる夜は　楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ　おもては寒い
栗や栗やと　呼びますペチカ

雪のふる夜は　楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ　じき春きます
いまにやなぎも　萌えましょペチカ

雪のふる夜は　楽しいペチカ
ペチカ萌えろよ　誰だか来ます
お客さまでしょ　嬉しいペチカ

ゆきのふる夜は　楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ　お話ししましょ
火の粉ぱちぱち　跳ねろよペチカ

＊牧場の朝

作詩・杉村楚人冠　作曲・船橋栄吉

ただ一面に立ち込めた
牧場の朝の　霧の海
ポプラ並木の　うっすりと
黒い底から　勇ましく
鐘が鳴る鳴る　かんかんと

もう起き出した　こやごやの
あたりに高い　人の声
霧に包まれ　あちこちに
動く羊の　いく群の
鈴が鳴る鳴る　りんりんと

今さし昇る　日の影に
夢からさめた　森や山
あかい光に　染められた
遠い野ずえに　牧童の
笛が鳴る鳴る　ぴいぴいと

＊待ちぼうけ

作詩・北原白秋　作曲・山田耕作

待ちぼうけ　待ちぼうけ
ある日せっせと　野良かせぎ
そこへ兎が　とんで出て
ころり転げた　木の根っこ

待ちぼうけ　待ちぼうけ
しめた　これから　寝て待てと
待てば獲物は　かけてくる
兎ぶつかれ　木の根っこ

待ちぼうけ　待ちぼうけ
昨日　くわとり　はた仕事
今日は頬づえ　ひなたぼこ
うまい切り株　木の根っこ

待ちぼうけ　待ちぼうけ
今日は今日はで　待ちぼうけ
明日は明日はで　森の外
兎待ち待ち　木の根っこ

待ちぼうけ　待ちぼうけ
もとは涼しい　きび畑
今は荒れ野の　ほうき草
寒い北風　木の根っこ

＊みどりのそよ風

作詩・清水かつら　作曲・草川信

みどりのそよ風　いい日だね
蝶々もひらひら　豆の花
七色ばたけに　妹の
つまみ菜つむ手が　可愛いな

みどりのそよ風　いい日だね
ぶらんこ揺りましょう　歌いましょ
巣箱の丸窓　ねんね鳥
ときどきおつむが　のぞいてる

みどりのそよ風　いい日だね
ボールがぽんぽん　ストライク
打たせりゃ二塁の　すべりこみ
セーフだおでこの　汗をふく

みどりのそよ風　いい日だね
小川のふな釣り　浮きがうく
静かなささなみ　はねあげて
きらきら金ぶな　嬉しいな

みどりのそよ風　いい日だね
遊びにいこうよ　丘越えて
あの子のうちの　花ばたけ
もうじきいちごも　摘めるとさ

＊港

作詩・旗野十一郎　作曲・吉田信太

空も港も　夜ははれて
月にかずます　船のかげ
はしけの通い　にぎやかに
寄せ来る　波も　黄金なり

林なしたる　ほばしらに
花と見まごう　船じるし
積荷の歌の　にぎわいて
港は　いつも　春なれや

＊虫の声

作詩作曲・不詳

あれ松虫が　ないている
ちんちろちんちろ　ちんちろりん
あれ鈴虫も　なきだした
りんりんりんりん　りいんりん
秋の夜長を　なきとおす
ああ　おもしろい　虫の声

きりきりきりきり
きりぎりす
がちゃがちゃ　がちゃがちゃ
くつわ虫
あとから馬おい　おいついて
ちょんちょんちょんちょん
すいっちょん
秋の夜長を　なきとおす
ああ　おもしろい　虫の声

＊むすんで　ひらいて

作詩・不詳　作曲・ルソー

むすんで　開いて
手を打って　むすんで
また開いて　手をうって
その手を　上に
むすんで　ひらいて
手をうって　むすんで

＊村のかじや

作詩作曲・不詳

しばしも　休まず　つち打つひびき
とび散る　火花よ　走る湯玉
ふいごの　風さえ　息をもつがず
仕事に　精出す　村のかじや

あるじは　名高い　いっこく者よ
早起き　早寝の　やまい知らず
鉄より　堅いと　自慢の腕で
打ち出す　刃物に　心こもる

＊村祭り

作詩・葛原しげる　作曲・南能衛

村の鎮守の　神様の
今日はめでたい　お祭り日
どんどんひゃらら　どんひゃらら
どんどんひゃらら　どんひゃらら
朝から聞こえる　ふえたいこ

年も豊年　まんさくで
村は総出の　おお祭り
どんどんひゃらら　どんひゃらら
どんどんひゃらら　どんひゃらら
夜までにぎわう　宮の森

治まる御代に　神様の
めぐみたたえる　村祭り
どんどんひゃらら　どんひゃらら
どんどんひゃらら　どんひゃらら
聞いても心が　勇みたつ

＊めえめえ　子やぎ

作詩・藤森秀夫　作曲・本居長世

めえめえ　森の子やぎ
子やぎ走れば　小石にあたる
あたりゃあんよが　あー　痛い
そこで子やぎは　めえ　となく

めえめえ　森の子やぎ
子やぎ走れば　かぶこにあたる
あたりゃ頭が　あー　いたい
そこで子やぎは　めえ　となく

やぶこあたれば　はらこがチクリ
とっこあたれば　くびこが折れる
折れりゃ子やぎは　めえ　となく

＊もみじ

作詩・高野辰之　作曲・岡野貞一

秋の夕日に　照る山もみじ
濃いも　薄いも　数ある中に
松をいろどる　かえでやつたは
山のふもとの　すそ模様

たにの流れに　散り浮くもみじ
波にゆられて　離れて寄って
赤や黄色の　色さまざまに
水の上にも　織る錦

＊桃太郎

文部省唱歌

桃太郎さん　桃太郎さん
お腰につけた　きびだんご
一つわたしに　くださいな

やりましょう　やりましょう
これから　鬼のせいばつに
ついて来るなら　やりましょう

行きましょう　行きましょう
あなたについて　どこまでも
家来になって　行きましょう

＊椰子の実

作詩・島崎藤村　作曲・大中寅二

名も知らぬ　遠き島より
流れ寄る　椰子の実一つ
ふるさとの岸を　離れて
なれはそも　波に幾月

もとの樹は　おいや茂れる
枝はなお　影をやなせる
われもまた　なぎさを枕
ひとり身の　浮き寝の旅ぞ

実を取りて　胸にあつれば
新たなり　流離のうれい
海の日の　沈むを見れば
たぎり落つ　異郷の涙

思いやる　八重のしおじお
いずれの日にか　国に帰らん

＊山寺の和尚さん

わらべうた

山寺の　和尚さんが
まりは　けりたし　まりはなし
猫を　かんぶくろに　押し込んで
ポンとけりゃ　ニャンとなく
ニャンが　ニャンとなく　ヨイヨイ

山寺の　狸さん
太鼓うちたし　太鼓なし
そこで　おなかを　ちょいと出して
ポンと打ちゃ　ポンとなる
ポンが　ポンとなる　ヨイヨイ

＊夕日

作詩・葛原しげる　作曲・室崎琴月

ぎんぎんぎらぎら　夕日が沈む
ぎんぎんぎらぎら　日が沈む
まっかっかっか　空の雲
みんなのお顔も　まっかっか
ぎんぎんぎらぎら　日が沈む

ぎんぎんぎらぎら　夕日が沈む
ぎんぎんぎらぎら　日が沈む
からすよお日を　追っかけて
まっかに染まって　舞って来い
ぎんぎんぎらぎら　日が沈む

＊雪

作詩作曲・不詳

雪やこんこ　あられやこんこ
降っては　降っては
ずんずん　積もる
山も野原も　綿帽子かぶり
枯木残らず　花が咲く

雪やこんこ　あられやこんこ
降っても　降っても
まだ降りやまぬ
犬は喜び　庭かけまわり
猫はこたつで　丸くなる

＊ゆりかごのうた

作詩・北原白秋　作曲・草川信

ゆりかごの歌を
カナリヤが　歌うよ
ねんねこ　ねんねこ
ねんねこ　よ

ゆりかごの　上に
びわの実が　揺れるよ
ねんねこ　ねんねこ
ねんねこ　よ

ゆりかごの　綱を
木ねずみが　ゆするよ
ねんねこ　ねんねこ
ねんねこ　よ

ゆりかごの　夢に
黄色い月が　かかるよ
ねんねこ　ねんねこ
ねんねこ　よ

＊宵待草

作詩・竹久夢二　作曲・多忠亮

待てど　暮らせど
来ぬ人を
宵待ち草の
やるせなさ
今宵は　月も
出ぬそうな

＊旅愁

作詩・犬童球渓　作曲・オードウェイ

更けゆく秋の夜　旅の空の
わびしき思いに　ひとり悩む
恋しやふるさと　懐かし父母
夢路にたどるは　さとの家路
更けゆく秋の夜　旅の空の
わびしき思いに　ひとり悩む

窓うつ嵐に　夢も破れ
はるけき彼方に　心迷う
恋しやふるさと　懐かし父母
思いに浮かぶは　もりのこずえ
窓打つ嵐に　夢も破れ
はるけき彼方に　心迷う

＊りんごのひとりごと

作詩・武内俊子　作曲・河村光陽

わたしはまっかな　りんごです
お国はさむい　北の国
りんごばたけの　晴れた日に
はこのつめられ　汽車ぽっぽ
町のいちばへ　つきました
※りんご　りんご　りんご
　りんご　かわいい　ひとりごと
くだものてんの　おじさんに
お顔をきれいに　みがかれて
みんなならんだ　おみせさき
青いお空を　見るたびに
りんごばたけを　思います
※　くりかえし
今ごろどうして　いるかしら
りんごばたけの　おじいさん
はこにりんごを　つめながら
歌をうたって　いるかしら
たばこをふかして　いるかしら
※　くりかえし

＊われは海の子

作詩作曲・不詳

われは海の子　しらなみの
さわぐいそべの　松原に
けむりたなびく　とまやこそ
わがなつかしき　すみかなれ

生まれてしおに　ゆあみして
なみをこもりの　歌ときき
せんりよせくる　海のきを
すいてはわらべと　なりにけり

高くはなつく　いそのかに
ふだんの花の　かおりあり
なぎさの松に　ふく風を
いみじきがくと　われはきく

じょうよのろかい　あやつりて
ゆくてさだめぬ　なみまくら
ももひろとひろ　海のそこ
あそびなれたる　にわ広し

いくとしここに　きたえたる
てつよりかたき　かいなあり
ふくしお風に　黒みたる
はだはしゃくどう　さながらに

なみにただよう　ひょうざんも
きたらばきたれ　おそれんや
海まくあぐる　たつまきも
おこらばおこれ　おどろかじ

いでおおふねを　のりだして
われはひろわん　海のとみ
いでぐんかんに　のりくみて
われはまもらん　海の国

【発行者】

ＮＰＯ法人　周話

〒546－0024
大阪市東住吉区公園南矢田１－５－７
TEL＆FAX　０６－６６５５－０６１９
MAIL　info@npo-syuuwa.jp

○ふれあい活動などでご使用される場合は、お気軽にご連絡いただければ、送らせていただきます。

連絡先
小川寛子　080-5304-6214